

2013 年度事業報告

1 事業の実施に関する事項

(1) 医療・福祉・教育・生活など暮らしに関する相談助言と支援事業

障害者のための相談日として毎月第2土曜日に開催することができました。弁護士、社会福祉労務士、社会福祉士などそれぞれの分野の専門職の対応により相談活動にも成果が上がっています。2013 年度からは、若手弁護士の輪番が生まれ、法律相談に対応できるようになりました。また、相談内容も年金受給手続きや支給停止、生活保護受給に関してなど多岐にわたっています。事務所の開所日には電話や、メールでの相談があり、内容によってそれぞれ個別に対応しています。

日時	相談者	相談内容	対応者
2013.04.13	障害者と家族 3名	成年後見人制度のこと、年金	社労士、弁護士
2013.05.11..	障害者と家族 1名	年金	社労士、実務者
2013.06.08	障害者と家族 3名	くらしと法律。年金	社労士、弁護士
2013.07.13.	障害者と家族 2名	生活保護、しごと	弁護士、社労士他
2013.08.10.	障害者と家族 2名	年金、けがの保障	弁護士、実務者
2013.09.14.	障害者と家族 2名	年金受給	社労士、実務者
2013.10.12.	障害者と家族 1名	労災認定保障	社労士、弁護士
2013.11.09.	障害者と家族 2名	年金	弁護士、社労士他
2013.12.14.	障害者と家族 2名	年金	弁護士、社労士
2014.01.11.	障害者と家族 1名	年金	社労士、弁護士
2014.02.08.	障害者と家族 1名	年金	弁護士、社労士他
2013.03.10..	障害者と家族 2名	支援費、介護保険など	弁護士、社労士
電話相談随時	障害者と家族 多数	施設入所、年金受給、生活保護	実務者、社労士

(2) 医療・福祉・教育・生活など暮らしに関する調査・研究と情報提供、及び各種つどい開催事業

A) 障害者に対する医療・介護制度の現状とみえてくる問題について学ぶために学習会を開催しました。私たちの求める制度とはどのようなものか考えあいました。

①2013年8月4日(日)

「障害をもつ人と人権としての生活保護」 神戸市総合福祉センター 出席者 30名

講師：金沢大学名誉教授 井上 英夫氏

地域に住む患者、障害者、高齢者、乳幼児が医療を受けにくくしています。同じく生活保護、老齢加算についても多くの問題があることを認識しつつ、誰もが利用しやすい、医療・福祉のネットワークづくりが重要だと話しました。

②2013年9月13日（金）

「成年後見人制度について学ぶ」 神戸市総合福祉センター 出席者 25名

講師：あいおい法律事務所 弁護士 大槻 倫子氏

「成年後見人制度のいろは」を学びました。どのようなもので、どんなときに使うか、利用についてのノウハウを教えてくださいました。

③2013年10月14日（月・祝）

「障害のあることどもの療育と放課後保障」 神戸市勤労会館 出席者 35名

講師：全国障害差問題研究会 副委員長 池添 素氏

保育所、就学前の問題について話、子育てにも新制度が入る。デイサービスや放課後ネットワークが重要な位置を占めること。児童デイの施設の室の問題点、施設が少ないことなど問題点が浮かび上がったことを改めて感じました。

④2013年11月30日（土）

学習会 「差別解消法」 神戸市勤労会館 308号室 出席者 125名

講師：あいおい法律事務所 弁護士 藤原 精吾氏

「障害者権利条約」が批准されたので、憲法と同等の効力のある法律となりました。憲法に照らして、法律を権利条約に合うように直せとすることができる。条約の審査があるときに、どんな問題を取り上げて、意見を出すところができるかを考えることが大事だと話されました。

B) 阪神・淡路大震災の被災地として障害者に対する避難の体制がどう整備されたか、どんな課題があるか整理し、今後どのような体制づくりが必要なのかを考えるために「災害と障害のつどい」を開催しました。今回は知的障害者の作業所、及び知的障害者の通学する学園の津波避難訓練を実施し、その内容も発表する機会となりました。

① 津波避難訓練（兵庫区） いかり共同作業所 利用者及び職員

ひょうご防災特別推進員の派遣を受けて「地震発生時の自己防衛方法を学び、建物内から屋外へ脱出するまで」を目的として避難訓練を実施した。

② 津波避難訓練（長田区） エコールKOBÉ 学園生と職員ほか

・ひょうご防災特別推進員から「地震・津波の被害に遭遇した場合の避難方法」についてお話を聞いた。自分たちでできる減災の心得として、ロープによる避難方法など実技指導を受けた。

・地域の自衛消防組織や近隣の店舗、新長田まちづくり株式会社、自治会等の協力を得て避難訓練を実施した。水消火器の使い方の指導を受けて、学生たちは熱心に取り組んだ。車いすの学生はおんぶして地上へ脱出した。

③ “ひょうご安全の日推進事業”

災害と障害者のつどい「南海トラフ巨大地震・大津波に備える」

～障害者はどう生きのびるか！～

日 時： 2014年2月1日（土）13：00～16：30

会 場： 神戸市勤労会館 会議室 403・404号

参加者： 130名

内 容：

▽実践報告「南海トラフ大地震・大津波に備える避難訓練を実施して」

社会福祉法人いかり いかり共同作業所 岡田 卓士さん
避難訓練を実施して日常からさまざまな状況を想定して、対処能力を身につけるよう訓練をくり返し行うことを課題とした。

▽実践報告「南海トラフ巨大地震・大津波に備えて避難訓練からみえたこと」

株式会社 WAP コーポレーション エコール KOBE 河南 勝さん
地下に学園があるので、エレベーターが使えないことを想定して、避難の方法を確認すること。地上に車いすの設置場所を確保すること。津波に際しては高いビルを避難場所として、避難経路等の確認など課題を残した。

▽実施報告 「災害時要援護者に対する支援体制の整備アンケート」報告

兵庫障害者センター 理事 井上 義治
県下 41 市町に対して「災害時要援護者支援に関するアンケート」を実施。
福祉避難室、災害時要援護者の個別支援計画など調査結果をふまえ、障害者が生きのびるために個々のニーズにあった避難計画を作るなど行政の取り組みを期待すると報告

▽講演 「障害のある人たちの地震・津波への備え」

人と防災未来センター 研究主幹 宇田川 真之氏
地震への備えとして福祉避難所や避難路の整備（公助）、そして地域の避難訓練や要援護者名簿・防災マップ作りなど地域のみんなで取り組むことが必要だとした。
（共助）避難訓練への参加など自分で努力することも大事。（自助）みんなの命を守るために、お互いが助かるために、地域の取り組みによって、支えあう社会のために力を合わせていくことが、地震・津波に備えることにつながるとまとめました。

避難訓練の実施報告、自治体アンケート結果報告、そして宇田川さんの各地の取り組みの紹介など大変意義のある話し合いになりました。自分の身を守る自助が大事だけれど、地域の方とともに活動する共助ももっと大切、そして要援護者名簿の整備など住民の命を守る取り組みを進める自治体の役割（公助）、支援体制の整備に期待します。

C) 情報提供

- ① ホームページを管理運営し、学習会や集いの予告などを掲載しました。
- ② 各種事業の計画等の開催に際してニュースを発行し、開催の様子や内容を報告しました。
- ③ 多くの方に“兵庫障害者センター”の存在を知ってもらうためにリーフレットを作成しました。（平成 25 年度 NHK 歳末たすけあい義援金の配分をいただきました。）

(3) 障害者団体の援助・支援事業

団体の活動への相互参加や情報交換ができること、また団体の活動拠点として役立っています。また、資機材の利用は円滑であり、共同事務所として順調に運営しています。

4月20日	理事会 総会の準備と打合せ	出席者 8名
5月11日	総会 事業報告・事業計画等の議事と承認	出席者 28名
5月12日	理事会 役員体制、事業計画についての討議	出席者 8名
6月7日	理事会 事業計画について内容の討議	出席者 8名
7月26日	理事会 事業内容の打合せ	出席者 9名
9月27日	理事会 連続講座、災害と障害者のつどい内容検討	出席者 9名
11月21日	理事会 ひょうご安全の日のつどいの開催について打ち合わせ	出席者 8名
1月6日	懇親会 交流会	出席者 9名
1月17日	理事会 ひょうご安全の日のつどい内容とアンケートについて	出席者 8名
3月25日	事務局会議 2013年度のまとめ、2014年度の計画について打合せ	出席者 5名

以上